水稲有望系統「佐賀5号」の特性

このことより、「佐賀5号」は「レイホウ」と比較して、いもち病にやや弱く、多肥により、心白、乳白の増加も懸念されるが、晚生良食味米「ユメハカリ」より多収なため、近年「ユメハカリ」の収穫が安定させ作付が伸び悩む中、普通栽培を基の安定収量が可能な晩生良食味系統として位置づけられる。

1. 測定方法

農業試験研究センターにおいて、奨励品種決定調査及び生態反応試験の中で晚生安定多収品種「レイホウ」を対照品種とし、移植時期を5月25日と6月15日の2水準、植栽株数を27.8, 22.2, 18.5株の3水準、a当たり施肥量を標準1.26kg、増肥1.53kgの2水準で検討した。現地に於いて地帯別の比較を平塚市、ほか6市に分けて検討した。

2. 結果及び考察

第1表の結果より、晩穂性は「レイホウ」と同程度の晚生で1穂穂数は「レイホウ」より多く中間型で、粒重は「レイホウ」よりも小さく、収量は「レイホウ」並みである。

第2表の作期別生育では、「レイホウ」は早植えで稈長が伸び、主稈葉数も21.6本増加したが、「佐賀5号」は移植時期によって稈長、主稈葉数の差はほとんど見られず、両作期共に主稈葉数が「レイホウ」より1.5L程度少くなった。また、「佐賀5号」は早植で鰐発分が多発し、弱小穂が目立った。両作期共に「佐賀5号」にいち病が多発したこととも因となり、低収となった。

の赤外線分析値の蛋白含量は、「佐賀5号」が両作期とも低かった。

植栽密度が収穫量に及ぼす影響は判らせず、「佐賀5号」は「レイホウ」同様あまり影響がないようである（植栽密度は省略）。

施肥量別収穫及び品質調査を第3表で示したが、基肥、増肥区共に千粒重は「レイホウ」より小さく、収穫は各々99, 98となった。また、増肥では「佐賀5号」に心白、乳白が増加し、検査等級がやや低下した。

地帯別適応性を第4表でみると、平塚上部で92〜107、平塚下部で97〜101となり、平塚上部で「レイホウ」並みと考えられるが、平塚上部では穂もち病の発生、生育量等の影響で、年次間差が目立つ。